

## 1. はじめに

米国で、バイデン新大統領による政治体制がスタートした。4年前の以前の状態に戻ることを期待する人もいる中、米国内を分断する考え方がはびこり、そう簡単に米国を一つにまとめるベクトルが働きそうにないのが残念である。さらに、新型コロナウイルスの蔓延が問題を複雑にさせている。1月末時点、米国感染者数は2600万人を超え、死者は40万人を超えており、米国が世界で最も感染者・死者ともに最多である。この数字は、世界の感染者数1億258万人の約1/4、死者数222万人の約1/5で、昨年5月末に報告したときよりも米国の世界に比した割合に減少傾向が出ている。感染者数の増加スピードも鈍化し始めており、それに伴い、経済活動再開の動きが始まりつつあるので、今回紹介する。



上記写真は、昨年12月8日に筆者が利用したときに撮った写真であるが、シカゴオヘア空港ターミナル3（アメリカン航空のメインターミナル）の離発着ボードである。いつも、全部埋まり、せいぜい3~4時間くらい先までしか表示できないのが、1日分すべての出発が、1面少々ですんでいた。昨年末は、かつて見たことのない状況であった。

## 2. フェーズ4（業種別経済活動再開許可指針）

カリフォルニア、テキサス、フロリダ州の3州が、初めのころ累計感染者数で最大だったニューヨーク州を昨年7月中に超えて、NY州の感染拡大防止に対する施策が評価されつつある。そのNY州（1月末累計感染者数約140万人）では、クオモ知事が、バレンタインデーからNY市でも屋内飲食（定員の25%以下）を認めることを発表した。学校は対面授業とオンライン授業を併用しつつ再開されつつあり、NY州は全体で、フェーズ4の段階にある。

〈各フェーズにおける再開可能産業〉

Phase1：建設、製造、卸サプライチェーン、小売業（屋外・テークアウト）、農業、林業、漁業

Phase2：専門サービス、金融・保険、小売業、管理部門、不動産・賃貸業

Phase3：レストランやフードサービス、ホテル

Phase4：芸術、娯楽、余暇産業、教育

Phase5：完全回復

## 3. IL 州の現状

NY州に次いで感染者数の多いイリノイ州（1月末累計約113万人）でも、フェーズ4段階にある。イリノイ州政府の指示により、各職場で、マスク使用・検温・消毒、ソーシャルディスタンス遵守や仕切り板・安全喚起表示設置など行っている。在宅勤務が可能な職場では引き続き推奨されているが、郊外レストランの再開が次第に始まっている。

抗原検査も必要に応じ受けられるサービス、設備、医療機関が増えてきており、IDPH（Illinois Department of Public Health）から以下の指針が出されているので紹介する。PCR検査や抗原検査で陽性になった場合、無症状であれば10日間の在宅隔離（isolation）を義務付けられる。10日後再度検査を受け、陰性でも陽性でも隔離不要となる。もしくは、10日待たなくても、24時間間隔をあけた検査で連続陰性であれば、隔離が不要となる。濃厚接触者は、14日間の在宅隔離（quarantine）が義務付けられる。

## 4. 在宅隔離 Isolation と Quarantine

Quarantine は、感染症に感染した可能性がある人を、他の人から遠ざけるために用いる。Quarantine は、病気に気づく前の感染者、あるいは、無症状感染者による感染拡大の防止に役立つとされ、Quarantine されている人（濃厚接触者）は自宅に待機し、他の人に近づかず、健康状態をモニターし、保健局の指示に従う必要があるとされる。

一方、Isolation は、感染者（症状のある人と無症状の人）と感染していない人を離すために用いる言葉である。Isolation されている人（感染者）は、他の人が周りにいても安全になるまで自宅に待機する必要があるとされる。自宅に感染者がいる場合は、可能であれば、病人用の部屋やエリアに滞在し、別の洗面所やトイレを利用することで、他の人から離される必要があるとされる。

## 5. おわりに

米国パウダーショーも今年、8月に再延期となり、今年の事業計画を立てにくい状況にあるが、感染対策を行いつつも、北米での経済活動再開に向け、今可能な手を打っておきたい。